

平成18年10月18日

## インターバイク・ラスベガス 2006

本年も9月27日から29日の3日間にわたり、インターバイク・ラスベガス展が米国ネバダ州ラスベガス市で開催された。今年は来場者が多い、といった感想が多方面から聞かれ盛況な展示会となった。一方で米国完成車メーカーの雄であるトレック社は、展示会に先立ち郊外の砂漠地帯で行われるアウトドアデモには参加していたものの、展示会本体には参加していないことが注目された。

### アウトドアデモとインターバイク展

例年どおりの9月末の3日間の日程で開催されが、例年と比較してより多くの来場者があったというのが今年の第一の印象である。来場者の多くは小売専門店の店主やスタッフであり、ロードレーサーブームに沸く米国市場を反映したものといえよう。米国の自転車市場に目をやると、2005年には国内の販売台数が1,980万台(NBDA・米国自転車小売協会調べ)に達し天井を打った感がある。

- 名 称** : インターバイク国際自転車展 (Interbike International Bicycle Expo)  
**主 催** : VNU イクスポジションズ  
**会 期** : 2006年9月27日(水)～29日(金)3日間  
(アウトドアデモ: 9月25日～26日、2日間)  
**会 場** : 米国ネバダ州ラスベガス市 サンズ・エキスポ・アンド・コンベンションセンター  
(アウトドアデモ: ネバダ州ボルダー市ブートレグ キャニオン)  
**展示面積** : 28,650㎡ (前年: 28,353㎡) \*小間の広さ  
**来場者数** : 約22,000人  
**出展社数** : 1,112社 (出展社名簿による手元集計)



アウトドアデモ

## 展示会全般について

シマノはMTB用の最高級モデルXTRをフルモデルチェンジした。極限の軽さを追求しつつ、フロント及びリア部分にXの文字を模したデザインとし、従来からのテクノロジーに加えデザイン性も加味したモデルとなった。一方、米国のスラムはロードレーサー用のFORCEのシフトレバーに、人間工学的な要素を織り込んだダブルタップ機能を施した。ダブルタップ機能によりシフトチェンジ時に違和感なく指で握る感覚で、シフトレバーを手元で操作できるのが特徴である。

他のブースではシュエインが電動自転車を3種類展示しており、その中の1種類にはシャフトドライブ機構の装備があった。しかし、これらの電動自転車は「電動アシスト自転車」ではなく、電動での自走が可能なタイプであった。

米国の業界関係者の話によると、「以前からのアームストロング効果によるロードレーサーブームが続いている。展示の内容をみてもロードレーサーとMTBが半々といったところである。」との意見があった。また米国では、「競輪認定部品の証であるNJSマークとメイドインジャパン」について、従来からの「高品質」といったイメージをもつ人は多い。「ロードレーサーやMTBでもカーボン化の流れが加速しているが、そういった流行の中で、何か新しいもの、高品質なものを追い求めている。」との意見もあった。

展示会場の中には、大きく6個所のパビリオンが展開された。まず、一番目立つのはイタリアパビリオンで、ブースの上部にイタリアのロゴを掲げ、イタリア製高級ブランドのイメージを、来場者のみならず出展社にも植え付けることに成功していた。また、台湾パビリオン、ヨーロッパパビリオンがあった。さらに、新製品やBMXパビリオンも設置され、来場者にとって見やすいものとなった。

ところで日本からの出展社は、キャットアイ、サイクルプレス、デサント、ハシモトテック、インタージェット、IRCタイヤ、クワハラ、三ヶ島製作所、ミノウラ、日東、ナショナルタイヤ、パールイズミ、シマノ、SRサンツアー、スギノテクノ、タンゲセイキ、テクノ南海、マルイ、東京企画販売、当協会（順不同）合計20社（当協会確認）であった。



スコット・カーボンロードレーサー



イタリアパビリオン

## 当協会のブース

当協会のブースは入り口からの導線上に位置し、キャットアイに近いところにあった。当協会のブースは毎年同じ位置であるので、来場者にとって非常に分かりやすいとのことで好評であった。ブース面積は 54 m<sup>2</sup> (6×9m)、共同出展社はインタージェット、スギノテクノ、タンゲセイキ、日東、ハシモトテック、三ヶ島製作所及びテクノ南海の 7 社であったが、日本の出展社の合計が 20 社であるので、その 3 分の 1 強の出展社が当協会ブースで展示した。



当協会ブース

## まとめ

インターバイク展はディーラー向けの展示会である。米国 2,000 万台の販売台数のうち、約 16%が専門小売店を通じて販売されている。このインターバイク展は国際的な展示会としては規模の小さい部類に入るが、米国の高級品市場をターゲットにしたもので、日本メーカーにとっては欠かせない展示会である。

(統括事業部)



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。